

様式第1号

事後評価シート

県土整備部

番号	事業名 箇所名	市町村名	事業概要	事業期間			事業費 (百万円)	対象 理由	担当課
				着手	※1 再評価	完成			
1	河川事業（総合流域 防災事業（五ヶ瀬川 圏域））	延岡市	改修延長：L=2,080m 家田川 L=1,480m 川坂川 L=600m	H15	H24	H29繰 H30	525	①	河川課

事後評価の結果 ※2

【事業の目的】

家田・川坂川は、貴重な植物が多く確認されており、その中には、この地区で新発見された植物（キタガワヒルムシロ等）があるなど、日本でも有数の群落等が含まれている。一方で、湿地の乾燥化が進み、外来種の繁茂が確認されたところ。本事業においては、地域住民と一体となり、家田川、川坂川の貴重な湿地環境を再生・保全することを目的とした。

【事業効果の発現状況】

用地買収により保全を図った箇所や掘削を実施した箇所において、その後のモニタリングで湿地性植物の生育が確認されるなど事業の効果が確認された。さらに地域の関心も高まり、地元団体との連携も図られ、地域住民による積極的な保全活動（藻刈りや除草・外来植物の駆除、伝統的護岸基礎工法「なんば引き」の実践等）が行われた。

※H18年10月に地元協議会を設立し、家田川、川坂川の自然環境の保全・再生・活用の推進に必要な協議を実施し、H20年以降は、各地区毎に「北川町温故知新の会」（H20）、「川坂川を守る会」（H22）、「家田の自然を守る会」（H23）が結成された。

【事業による環境の変化や環境保全】

乾燥地の外来種繁茂箇所の掘削や、シードバンク（過去に繁茂していた湿性植物の種が地中深くにそのまま保存されている）想定による「ほぐし掘削」により、生育植物が乾燥から湿性に变化し、これまで確認されていなかったレッドデータブック記載植物が出現するなど、湿原全体におけるレッドデータブック記載動植物及び昆虫類の数が掘削実施前と比べ増加したことなどから、環境が好転し、その保全も図られている。

<重要種の確認状況>（家田湿原）

- 植物：19種（H22）⇒25種（H29）
- 魚介類：7種（H28）
- 鳥類：5種（H16）⇒6種（H28）
- 両爬：5種（H15）⇒4種（H28）
- 昆虫類：19種（H16）⇒24種（H27）

<重要種の確認状況>（川坂湿原）

- 植物：10種（H19）⇒12種（H29）
- 魚介類：6種（H28）
- 鳥類：2種（H16）⇒4種（H29）
- 両爬：3種（H15）⇒3種（H28）
- 昆虫類：8種（H16）⇒19種（H27）

新たに確認された主な重要種（植物相）

- （家田湿原）
- ヒメシロアサザ、コジュズスゲ
- （川坂湿原）
- ヒトツバハギ、ミズオオバコ

【施設の維持管理状況】

地元有志により結成された協議会等の団体と協働で定期的に状況把握を行うとともに、課題を共有しながら適切に維持管理を行っている。

【今後の事業評価の必要性】

事業完了から4年が経過し、湿原の再生、保全が図られている。事業実施前と比較して動植物の生育環境が好転するなど、事業効果が確認できていることから、事後評価の必要性はないと考えられる。

【改善措置の必要性】

大きな環境変化や悪化は確認されておらず、良好な状態が保たれていることから、改善措置の必要性はないと考えられる。

【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】

本事業における計画策定や維持管理のあり方については、当初から地元や学識者と連携して、意思疎通を図りながら進めており問題はなかったと考える。

総合評価	特記事項
事業効果が認められる	特になし

（対象理由）

- ①全体事業費が基準額以上であり、かつ事業完了後一定期間が経過した事業
- ②再度、事後評価の必要があると判断した事業

- ※1 再評価の実施年度については、直近のものを記載すること。
- ※2 事後評価の際には、出来る限り客観的な数値を記載すること。